

⑦ 経営情報システム

【総評】

令和7年度の本試験は、近年の設問数と同じ25問であり、5肢択一が23問で前年度までと比べ2問減少した。時事的な出題は例年通り多いが、確実な知識や消去法などを活用することで、標準的なレベルであったと思われる。

出題形式は、空欄補充問題5問（前年度2問）、用語と説明の組み合わせ1問（前年度1問）、計算問題3問（昨年4問）、正誤判断7問（前年度8問）であった。

出題の分野別内訳を見ると、概ね第1問～第6問・第8問～第12問が情報通信技術に関する基礎的知識、第7問・第13問～第25問が経営情報管理の出題である。特徴を列挙すると、次のとおりである。

- ①時事問題・最新の内容の出題がある（第20問のAIに対する攻撃、第21問デジタルガバナンス・コードなど）。
- ②確実な知識で正解を絞り込むことができる問題が出題されている。
- ③過去問題の類似問題も出題されている（第13問のシステム開発手法、第23問のEVM、第25問の機械学習など）。

経営情報システムは、難易度のばらつきが大きい科目であるが、正解すべき問題、適切・不適切な選択肢について、基礎知識をフル活用しつつ、選択肢間の関係も視野に入れて選択・削除できる力が求められる。

（情報通信技術に関する基礎的知識）

第1問（USB）、第5問（通信プロトコル）、第9問（稼働率）、第11問（正規化）などは正解したい問題である。

（経営情報管理）

第7問（テスト）、第16問（データウェアハウス）、第23問（EVM）などは正解したい問題である。

以上